

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

第11回「ネットワークの電位差理論」

後藤滋樹 (goto@ntt-20.ntt.jp)
日本電信電話株式会社
ソフトウェア研究所

まず次の問題をウォーミングアップのつもりで考えてみよう。

[練習問題]

あなたの机の上には24冊の「インターネットマガジン」が置いてある。さて、この雑誌の情報量は何冊分に相当するか。

え、なんですって。24冊あるというのだから24冊分ではないの。でもインターネットマガジンは本号が創刊から数えて11冊目だよなあ。24冊の中には重複があるということか。待てよ、24冊が全部同じだったらどうなるの。

情報はコピーしても増えないと教科書に書いてありましたよ。繰り返しでも冗長であると。それじゃ答は1～11冊分の範囲にあるということか。あ、別の問題が来たぞ。

[問題]

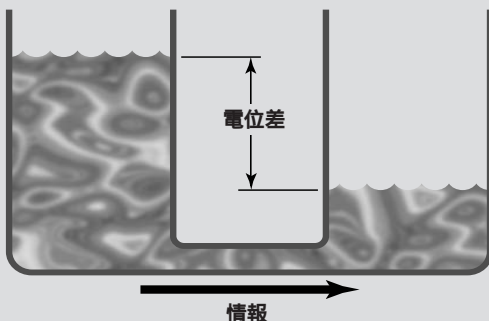
ある国の人口は1億2千万人であるという。さて、この国の人間を情報量の観点で合計すると何人分に相当するか。

あれ、この国って日本のことかな。随分と意地悪な質問だなあ。出題者にも正解はわからないだろうに。でも1億2千万人の人が全部違った情報を持っているわけではないから、「情報量が人口の数字よりも少ない」ということを言いたいのだろうね、きっと。

【電位差と情報の差】

電位の差のあるところに電流が流れる。それと同様にネットワークの一方に情報があり、他方にその情報がないときにネットワークの上を情報が流れる。これを称して「ネットワークの電位差理論」という。

逆にいうと、ネットワークの真価が発揮されるのは情報の差が激しいところである。この好例はインターネットの発祥の地である米国だろう。何といても国土が広大である。国内でも東海岸



と西海岸では3時間の時差がある。気候風土も違う。住民の思想信条もライフスタイルも変化に富んでいる。いわゆる多様性 (diversity) てやつだ。こういう国でネットワークが意味を持つのは当然だなあ。

翻って日本はどうだろう。よくユニフォーム (一様) な国民だと指摘されている。本当にそうなのか。日本人の情報もユニフォームだとしたら、ネットワーク時代には相応しくない。「もっと多様性を！」と叫ばないといけないのかしらん。

【アジアの多様性に学ぶ】

もしも。日本がユニフォームだとしても近所に多様性の宝庫がありますよ。それはアジアだ。広大な地域、気候も随分違う、宗教的背景も様々、言語もいろいろ。経済的に見ても1人当たりGDPが相当に違う。実に多様性が洪水になって溢れ出している。日本人はアジア人なのです。

その多様性が、いずれネットワークの上を流れる情報の起電力になる。そのためには私たちが心の準備をしないといけない。消極的に時が来るのを待つのでは遅すぎる。何といてもアジアのインターネットは急成長中なのだから。でも何をすればよいのだろうか？

もちろん多様性は、よいことも悪いことも巻き起こす。これも覚悟しないとけない。電子メールは友情を育み感動を伝えるが、その反面では喧嘩にも使える。大体、よいことと悪いことが半半ずつ起こると考えれば間違いない。

【ネットワークの両端には人間がいる】

コンピュータネットワークは表面的には計算機を結合している。でも、ネットワークの力は人間に由来する。気合でいえば、人間同士を結合していると思ってよい。たまたま人間に配線をするのが面倒だから、手近にある計算機を接続している。

そうするとネットワークの両端の電位差つまり起電力は、両端の人間の努力次第である。いえいえ、無理に中国語を勉強しろとはいいません。私だって駄目です。でも、努力といっても古典的に真面目にやる必要はない。私たちにはコンピュータがありますからね。できれば楽しく進みたい。

そのような動きの先駆としてアジアの中で好評を博しているのが、半田剣一氏のMule (多言語エディタ) とか高田敏弘氏のL10N* Mosaicです。実に好調なスタートです。ひとつ私たちが工夫をしてみませんか。再見。

* L10N = Localization, LとNの間にちょうど10文字あるというのが由来。localとは現地の言語という意味。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp